

新潟県

公民館月報 4

平成14年4月号 通巻第590号



表紙 第9回寺泊町民
綱引き大会
(寺泊町公民館)

特集 平成14年度家庭・地域における
子育て支援の取組予定

視 点 ほんまもの愛

ひろば 市町村合併雑感

サークル交流 村上マシッコクラブ (村上市中央公民館)

書道教室 (清里村公民館)

素顔拝見 竹淵美菜さん (長岡市)

丸山高之さん (川口町)

第43回関東甲信越静公民館研究大会
兼第53回新潟県公民館大会開催要項(案)

- テーマ 公民館の挑戦～「学び」から「活動」そして「創造」へ～
1. 趣旨 「地方分権推進計画」と教育改革国民会議等の報告を受けて、二度にわたり社会教育法が改正された。これら改正により公民館は、地域に根差した「人々の生活」や「まちづくり」に活かす積極的な運営と、「地域及び家庭の教育力の向上」を図る体制と事業の展開が求められている。
このような社会的・時代的な要請を受けて、より創造性に富み、かつしなやかな公民館の運営・事業への転換を図りたく上記のテーマを設定した。
さらに、分科会の展開にあたっては、従来の分野別・領域別から、内容別テーマを考慮した15の分科会を設置し、テーマを踏まえた体験重視の実践化を図るための方策を探ることとした。
2. 主催 関東甲信越静公民館連絡協議会 新潟県公民館連合会 新潟県教育委員会 豊浦町教育委員会
3. 主管 第43回関東甲信越静公民館研究大会実行委員会(新潟県公民館連絡協議会・二市北蒲原郡公民館連合会)
4. 後援 文部科学省 新潟県 豊浦町 新潟県公民館振興市町村長連盟 新潟県市町村教育委員会連合会 新潟県社会教育委員連絡協議会 新潟県社会教育団体懇話会 青少年育成新潟県民会議 NHK新潟放送局 新潟日报社等
5. 期日 平成14年8月29日(内)～30日(外)2日間
6. 会場 新潟県豊浦町月岡温泉 ホテル泉慶・華風
7. 参加者 公民館職員 公民館運営審議会委員 教育委員 社会教育委員 教育委員会事務局職員 社会教育関係施設教職員 社会教育団体関係者 生涯学習審議会委員及び生涯学習関係者 その他本大会への参加希望者
8. 日程

Table with 2 main rows for 8月29日(内) and 8月30日(外), showing time slots from 11:00 to 17:00 and 9:00 to 11:50 with corresponding activities like 分科会発表, 記念講演, etc.

Table for 9. 分科会テーマ with 15 rows listing topics like 時代に即応した都市公民館の運営, 公民館活動のアドビール方法, etc., and corresponding prefectures like 担当県.

- 10. 記念講演 講師 同学院大学教授 新潟県立歴史博物館長 小林 達雄 様
11. 参加申込総括表・参加費送付先
(1) 参加費 3,500円(資料代含む)
(2) 参加希望者は、別紙申込書に必要事項記入の上、参加費3,500円を添えて所管の公民館(区市町村)を通じて、各都県公民館連合会事務局へ6月24日(何)までに申し込んで下さい。
(3) 各都県公民館連合会は「申込総括表」(別紙)によりまとめ、7月1日(何)までに紳士エイティビー新潟支店内「第43回関東甲信越静公民館研究大会」係へ申し込んでください。
[参加申込総括表送付場所]
〒951-8063 新潟市古町通6-976
株式会社ジェイティビー新潟支店内 「第43回関東甲信越静公民館研究大会」係
TEL 025-224-2201 FAX 025-229-5775

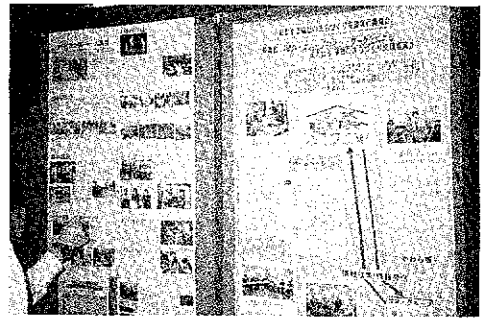
第43回関東甲信越静公民館大会は、豊浦町月岡で8月29日(内)30日(外)の開催となった。ここにその開催要項案を紹介した。大会は、新潟県公民館連協と二市北蒲公連が主管し、事務局を県公連に置き、大会会場は「ホテル泉慶・華風」での開催となる。大会内容は、「公民館の挑戦」をテーマに掲げ、学びから活動として創造をサブテーマに設定し、研究協議を進める予定として、

とくに今大会は、分科会の展開にあたって、従来の分野別・領域別から内容別テーマを考慮した15の分科会を設置し、テーマを踏まえた体験重視の実践化を図るための方策を探ることとした。記念講演も、国学院大学教授で県立歴史博物館長小林達雄先生を講師として予定している。

第43回関東甲信越静公民館研究大会
兼第53回新潟県公民館大会
テーマ 『公民館の挑戦』 ～「学び」から「活動」そして「創造」へ～
開催要項案でできる

『公民館運営審議会委員の手引-改訂版-』完成!!
新潟県公民館五十年誌
社会教育学級等における
学習計画立案の手順と方法
元横浜国立大学教授 吉川 弘著
公民館月報(個人購読大歓迎) 定価1部150円 年共・年極 1,800円
申込先 〒951-8053 新潟市川端町2-9 県林業会館内 県公民館連合会事務局 ☎・FAX025-224-6073

NPOの連携による まちづくり支援事業



・平成14年3月15日(金)
・国立オリンピック青少年
総合センターで

平成13年度NPOの連携によるまちづくり支援事業委嘱先の全国46市町村関係者多数が参集し、ユニークな、しかも地域性豊かな事例発表等がなされた。

まず、吉田博彦(NPO教育支援協会代表理事)から、「行政とNPO～なかなかうまくいかないもんだ～」と題して、自らの体験を交えての基調講演がなされた。

ついで、シンポジウムに移ったが、実際過疎の地で取り組んでいる人、研究者、行政担当の3人の方から、それぞれの立場での実践、問題点の指摘と今後の方向づけがなされた。

最後は、委嘱を受けた三県三市町の実践事例の紹介がなされ、閉会した。

本県からは赤泊村の、村制施行100周年記念事業の公演創作野外劇「赤泊湊物語」が事例集に掲載、紹介されている。

市町村合併雑感

新潟市黒埼地区公民館運営審議会委員 谷井輝雄



新潟市と黒埼町が合併したのが二十一世紀初頭の一月一日からであり、私はその黒埼地区からの委員である。

合併問題でのすり合せに於いて旧黒埼町がデメリットとなるものが約二十件程度、現状維持と現状より良くなるものが二百数十件と圧倒的にメリットの方が確かに多かった。私も通勤、高校通学、そして買物まで大多数が新潟市圏である以上、早々に新潟市との合併には賛成ではあった。

ひるば

しかし合併後一ケ年を経過した今、振り返ると合併が良かったのかと云う疑問が率直に生まれて来ている。それは結果として旧黒埼町時代より良くなったというものがなかなか出てこない、また住民の目には実感として伝わってこないからであろうか。確かに合併建設事業十年間で七三三億円、「スポーツ公園」「文化会館」等は計画されて

視点

保育士と
なつて二十
五年。生後
間も無い赤
ちゃんが並
んだ保育
所、看護婦
常駐の病後

新聞に「三つ子の魂
に裏付けはない、安心
して母親は仕事を」と
研究者の成果が載っ
た。受け取り方の違い
か私は寂しさを感じ
た。どうか付け加えて
ほしい気持ちがある。

学童保育が進むであ
ろう新年度が近づき、
公民館事業への期待が
多いと聞いている。絵
本の会など子ども達に
せめて潤いを願う気持
ちだろう。私も小さな
劇場の夢を描く一人な

うまく育たないのかも
知れない。生の語りを
目標に、仲間と試行錯
誤が始まった。しかし、
まだ何か足りないと思
じるこの頃。幼い頃耳
元で聞く父母の声とひ
ざの感触に勝るものは
ないと気付いた。

児託児所も今やめづら
しくない。働く父母に
は便利であり、子ども
達の生活も大きく変化
した。

私達が精一杯の愛情を
注いでも、父母には到底
及ばない。ふれ合い
は時間の長さではな
く、ふつと振り返る父
母のまなざしの優しさ
で十分だと思う。

ほんまもんの愛
笹崎 つや子

私達は働く父母と子
ども達の健やかな成長
をできる限りの方法で
応援していく。そして
もう一つ、家族の暖か
さの中でゆったりと育
つことの大切さを忘れ
ずに伝えていこう。
(吉川町 保育士)



のだ。教育機器にはす
ばらしい作品があり、
偉大な子守役も果たし
てくれる。それに対し
て肉声への反応が薄
いのはなぜだろう。機械
音だけでは心も言葉も

来ているようではあるが、この
十年間の間に確実に実行されて
行くのか。市の財政如何では今
後見直しをされる可能性もある
のではないかと危惧している。
合併前、新潟市の知人が「合
併などしない方がいい」と
云っていた。それは小さい
黒埼町から大きい新潟市へ
来ると住民サービスが必ず
悪くなる、黒埼もやがて忘
れられた存在になるとも
云っていたことを思い出
す。現在進行中の亀田町、
横越町も旧黒埼町の条件で
の合併は望めないと云わ
れている。このほか県内の
あちこちでこの合併問題が
動き出している。どこの自
治体も財政面でそれだけ緊
迫して来ているし、国の勸
めもある。市町村の合併の特例
に関する法律。即ち合併特例法
の期限は平成十七年三月までと
時間的余裕がないかも知れない
が、黒埼は合併まで七年かよっ
ている。合併についてはあくま
でも慎重審議でありたいし、禍
根を残さないように。また住民
が納得の行く合併を切に望みた
いものである。

における子育て支援の

新潟県教育庁生涯学習推進課

よう、「生涯学習関連事業説明会」「教育事務所の市町村訪問」をとおして働きかける。

ア 子育て学習の全国展開【国補】(市町村実施)

乳幼児や小学校入学前の子どもをもつすべての親が参加する就学時健診等の機会を活用して、家庭教育に関する学習機会を提供したり、思春期の子どもを持つ親向けの子育て講座や子どもが生まれる前の妊娠期の夫婦を対象とする子育て講座を全国的に実施する。

- 就学時健診等を活用した子育て講座【国補継続】
- 思春期の子どもをもつ親のための緊急子育て講座【国補拡充】
- 妊娠期子育て講座【国補新規】

イ 公民館等における家庭教育学級の実施(市町村実施)

上記の講座も含めた、公民館等における家庭教育に関する講座・学級

ウ 父親の家庭教育への参加啓発出前講座【国補継続】(教育事務所実施)

父親の家庭教育への理解と参加を図るため、企業や公民館、保育所等で主に父親を対象に出前の講座を実施(県内4か所)

3 相談体制及び子育て支援体制の充実を図る

家庭教育子育て電話相談員の資質の向上を図り、親の多岐にわたる深刻な相談に対応するとともに、地域の指導的な役割を担う人材を養成し、子育てサークルや子育てサポーターの設置を促進することにより、地域での相談体制の整備を図る。

(1) 家庭教育指導者養成研修会【県単新規事業】(県立生涯学習推進センター)

市町村で実施している子育てサポーター事業や子育て講座での講師として、地域の指導的役割を担う人材の育成を図る。

(2) 家庭教育子育て電話相談「すこやかコール」【県単】(県立生涯学習推進センター)

○相談時間 月～金 13:00～21:00 (21:00～翌13:00はFAXで対応)

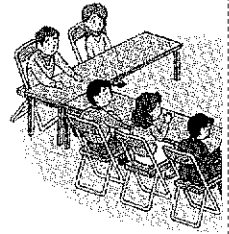
(3) 市町村職員の研修実施(県立生涯学習推進センター)【再掲】

市町村職員を対象に子育て支援に関する研修を行い、指導力の向上を図ることにより、子育てサークル

■子育て学習の全国展開

小学校に入学する前の子どもをもつ親が参加する就学時健診や乳幼児健診の機会を活用した子育て講座の開設を全国的に推進します。また、思春期の子どもの問題行動などについて悩みや不安をもつ親を対象とした緊急子育て講座をモデル的に実施します。

(文部科学省資料2)



や子育てサポーターの設置を促進する。

4 学習・体験活動機会の充実により地域教育力の活性化を図る

完全学校週5日制の実施に伴い、休日における子どもたちに多様な学習・体験活動の機会と場を提供し「生きる力」をはぐくむため、地域の大人が指導者として積極的に子どもたちと関わり、地域社会が一体となって子どもを育てる体制づくりができるよう、14年度新規事業「いきいきウィークエンド夢事業」を計画し、国の新規事業とあわせ県下全域での取組が行われるよう働きかける。

(1) 「いきいきウィークエンド夢事業(レッツトライ)」【県単新規事業】

小・中学校区や市町村を活動単位に、スポーツ・自然体験・文化活動等を年間をとおして計画的に提供し、地域ぐるみで子どもたちを育てる体制づくりに取り組む市町村に補助。

(2) 「子ども放課後・週末活動支援事業」【国委託新規事業】

完全学校週5日制の実施を踏まえた、子どもを中心とする地域の新たな教育的課題に対応し、地域で子どもを育てる環境を充実するため、地域のスポーツ指導者、大学生や高齢者等の地域資源を活用した子どもの活動支援など、地域の実情に即した取組を促進するためのモデル事業。

■父親の家庭教育への参加促進

父親の家庭教育への参加を促進するため、研究協議会やフォーラムの開催、家庭教育に関する出前講座を企業などで開設したり、子どもたちが父親の職場を見学する機会を提供するための事業を実施しています。



■子育てネットワークの形成

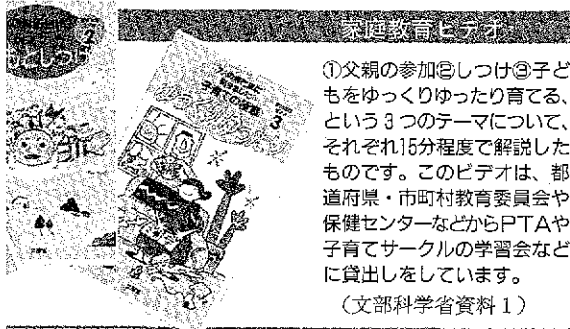


「子育てサポーター」を市町村に配置したり、様々な子育て支援交流事業を実施するなど、地域における子育て支援のネットワークづくりを進めています。

子育てやしつけについて、友人のような関係で気軽に相談にのったり、きめ細かなアドバイスなどを行うため、地域の子育て経験者などを「子育てサポーター」として委嘱しています。

公民館をはじめ、小学校の余活教室、幼稚園、女性会館などを利用して、子どもの遊び場の確保、様々な遊びや体験活動を通した親子の交流、子育てサークルの交流などの事業を実施しています。

(文部科学省資料3)



家庭教育ビデオ

①父親の参加②しつけ③子どもをゆっくりゆったり育てる、という3つのテーマについて、それぞれ15分程度で解説したものです。このビデオは、都道府県・市町村教育委員会や保健センターなどからPTAや子育てサークルの学習会などに貸出しをしています。

(文部科学省資料1)

特集 平成14年度家庭・地域 取組予定

家庭は、深い愛情を持って子どもを育てるとともに、子どもが親を信頼し、喜びなどが実感できるやすらぎのある家庭を作りだしていく役割を担っており、こうしたふれあいをおして、基本的な生活習慣や生活能力、自制心や自立心、豊かな情操、他人に対する思いやり、善悪の判断などの基本的倫理観、社会的なマナーなどの基礎を子どもたちにはぐくむものであり、全ての教育の出発点である。

また、地域社会は、子どもたちの成長を支援する場であり、地域社会での様々な生活体験や社会体験の場をおして、大人が子どもたちの成長を温かく見守りつつ、やさしく声をかけたり時には厳しく叱ったりしながら子どもたちを導いていく役割を担っている。

しかしながら、近年の都市化、核家族化等によって、地縁的なつながりを頼りに子育ての知恵を得ることが難しくなったこと、個人重視の風潮など人々の価値観が変化したことなどによって家庭教育をめぐる状況も大きく変化し、過保護・過干渉や無責任な放任、育児不安の広がりやしつけへの自信喪失など様々な問題が生じている。

家庭を取り巻く環境が大きく変化する中で、家庭の孤立化も進んでいることから、高齢者の介護を家庭だけに委ねるのではなく、地域で支えることが求められているように、家庭教育についても、公的な機関や地域の様々な団体・グループのネットワークによって支援体制の充実を図っていくことが不可欠となっている。

県教育委員会としては、平成14年度から完全学校週5日制が実施されることに伴い、子どもたちの家庭や地域で過ごす時間が大幅に増えることを機会に、家庭が、その役割と重要性を認識し責任を果たすとともに、地域社会全体で子どもたちの育成を支援するという視点から、家庭教育に必要な情報の提供、学習機会の充実、子育て支援や相談体制の整備等の取組を総合的に進めていく。

1 家庭教育に関する情報を提供する

家庭が子どもたちの人間形成の基本を形成する場であることを啓発したり、地域の子どもは地域で育てる気運を高めるため、家庭や地域における教育の在り方とその実践例の紹介等をおして県民の理解を深める。

(1) 家庭教育手帳・家庭教育ノートの配布【国継続事業】

○家庭教育のヒントや相談窓口の紹介等

- ・家庭教育手帳：母子健康手帳の交付時に配布(32,235部)
- ・家庭教育ノート：小学新1年生の全保護者に配布(28,360部)

(2) 家庭教育ビデオの配布【国継続事業】

- ・妊産婦及び妊産婦の配偶者を対象にした家庭教育ビデオ(新規)を市町村教委、市町村母子保健主管部局291か所に配布

(3) 県の様々な広報媒体による啓発【県事業】

- ア 教育委員会広報「かけはし」(児童生徒、保護者対象)
- イ 県の広報媒体(テレビ、新聞等)(県民対象)
- ウ 市町村広報誌による啓発記事の掲載(地域住民対象)

2 家庭教育に関する学習機会・内容を拡充する

家庭教育力向上に直接結びつく内容の講座が全市町村で開設されるよう、次のことに取り組む。

(1) 家庭教育講座事例集の提示(県立生涯学習推進センター)

どのような講座を開設したらよいか悩んでいる市町村や、未実施の市町村が容易に講座等を開設できるよう、県立生涯学習推進センターにおいて、県公民館連合会と協議の場をもちながら、家庭教育講座の事例集を作成し、4月に市町村に提示する。

(2) 市町村職員の研修実施(県立生涯学習推進センター)

市町村職員を対象に、子育て支援に関する研修や講座開設の企画運営の研修等を行い、指導力の向上を図ることにより、学習機会充実への取組を促進する。

(3) 家庭教育指導者情報の提供(県立生涯学習推進センター)

県生涯学習情報提供システム(ラ・ラ・ネット)により、指導者の確保が困難な市町村に対して、家庭教育指導者の情報の提供に努め、市町村での「家庭教育に関する学習機会と内容の拡充」の取組を支援する。

(4) 市町村における家庭教育に関する講座の拡充

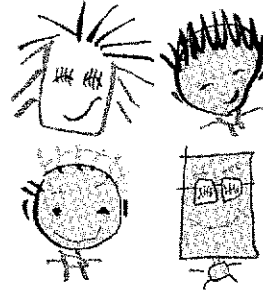
子育て学習の全国展開(国補)等を活用することにより、全市町村で家庭教育に関する講座が開設される

《フェスタ2002全体構成》

時間	大ホール	小ホール
13時30分	開会式 主催者あいさつ	「子どもワクワク広場」 ボランティアの人たちと子ども(3歳以上)による工作教室、歌、手遊び等。
13時35分	■河合隼雄氏のトーク 「もっと気楽に子育てしませんか?」	
13時50分	■パネルディスカッション 「家庭の教育力再生をめざして」 ※事例紹介をはじめ、映像を使用してわかりやすく展開。	
15時20分	休憩	
15時45分	子育てネットワークフォーラム(全国各地の子育てネットワーク等の関係者や行政関係者などが参加) 事例紹介? 坂井輪地区公民館「ワイワイネットワーク」(新潟県)	親子で楽しむエデュテイメント NHK「まちかど・レ・ミ」歌っちゃおう! 親子体操や手あそび、リズムあそび、工作教室、おもちゃ広場など親子のふれあいを中心としたショー。
16時15分		ティーパーティー 於: レストラン「とき」 子育てネットワーク等の関係者や社会教育行政関係者の情報交換等
17時00分		
18時00分		

家庭教育フェスタ2002 見つけよう!自分らしい子育て

家庭教育フェスタ2002 見つけよう!自分らしい子育て



●2002年3月20日(水)

●国立オリンピック記念
青少年総合センター

●開場: 正午/開会: 午後1時30分
●入場無料

◇事例紹介2

新潟市坂井輪地区公民館「ワイワイネットワーク」(新潟県)

斉藤直子さん、八坂絵里子さん

1. 私たちのネットワークについて

- ◎ネットワーク名: 『ワイワイネットワーク』
- ◎サークル数、会員数: 8サークル、106人(個人会員4人を含む)
- ◎代表者名: 運営スタッフ7人(特に代表を決めず)
- ◎連絡先: 〒950-2055 新潟市守尾上3丁目1番1号
新潟市坂井輪地区公民館内
電話/FAX 025-269-2043 E-mail: sakaiwakomin@city.niigata.niigata.jp

◎発足の時期、経緯

☆平成5年度

坂井輪地区公民館を主な活動場所としている子育てサークルのネットワーク化をねらいとした坂井輪地区公民館の主催事業として発足。

事業名: 「子育てサークル研修会」

☆平成13年度

自主グループとして新たな形で発足(公民館は共催として)。

2. 私たちが活動している地域について

- ◎活動場所: 新潟県新潟市坂井輪地区
- ◎地域の特徴:
☆坂井輪地区人口9万人(新潟市=約50万人。市内11地区公民館有り)。
☆昭和39年の新潟大地震後に人口が増えた住宅地。文教地区であり、教育・文化・コミュニティづくりへの関心が高い。

◎行政との連携

①社会教育行政との連携

- ☆新潟市坂井輪地区公民館の「子育てサークル研修会事業」として、共催で事業を行う。
- ☆年間を通じて、運営会議をはじめ行事・講座等での部屋の利用、母子分離の際の保育室設置、講師・保育者の謝礼などで公民館の支援あり。

3. 私たちの活動内容について

◎活動内容の概要

- ☆子育てサークルをつなぎ、サークル活動の運営方法や問題など、また、子育ての悩みや情報交換を通して、皆で話し合い、考えることを目的としている。話し合いや学習を重ねる中で、イベント開催、地域への情報発信をしている。
- ☆「ワイワイネットワーク通信」発行(話し合いの内容を会員向けに随時発行)。
- ☆「～坂井輪地域の子育て情報紙～mamネット」を発行する

「mamネットさかいわ」との連携。

- ◎子育て情報誌(地域の子育て情報やネットワーク活動などを記載した新聞や冊子)の発行を行っている場合、その状況。

☆平成12年度

- ワイワイネットワーク編集部「WAIWAIネット通信・mam」(地域の保育園・幼稚園情報)を発行(保育園版/幼稚園版各800)

- ・配布先: 公民館利用サークル、近隣公民館、保健福祉センター、近隣地区事務所、近隣の民間子育て支援施設など。
- ・広報: 市報、新聞(地方紙)など
- ・反応: ・子育てサークルでは、入園前の子どもが多いため、「保育園・幼稚園さがし」などで利用されていた。
・公の機関の発行物では得られなかった特色や、入園前に利用できる園開放について掲載した点が好評だった。

☆平成13年度

- 「ワイワイネットワーク」から編集部は独立し、情報紙製作は公民館事業として継続中。

- ・「WAIWAIネット通信mam 改訂版」(地域の保育園・幼稚園情報)の発行(保育園版/幼稚園版各800部)。
- ・より広い「地域の子育て情報」の提供を目指し、「mamネットさかいわ」として、現在は子育てサークル紹介欄を準備中。

◎その他の特長

- ☆乳幼児から中高生の親までの幅広い年齢層のメンバーで構成されている。イベント開催時(屋内運動会など)では、大人のみでも参加しやすいよう工夫したり、また、事前の準備にも会員から参加してもらい、一緒につくりあげていく楽しみ、喜びを感じ合うことを大切にしている。
- ☆運営スタッフについては、常時受け入れている。
- ☆行政主体(公民館の主催事業)から市民主導型(自主グループとして企画運営し、公民館との共催という形)へ移行した。
- ☆主な活動場所が公民館ということもあり、世代間交流の可能性も考えていける。
- ☆「自分たちのやりたいことを、自分たちの手で」を基本コンセプトに、公民館を相談先、窓口としながら、人口9万人の坂井輪地区という身近な地域での活動を大切にしている。
- ☆毎年、新しいメンバーが参加するため、1年をワンサイクルとして活動している。より多くの人たちに参加してもらい、ネットワークすることの重要性を知る機会になっている。

サークル交流

言葉を超えた

コミュニケーション

村上マジッククラブ

12月に市内に住む外国人の方を招いて、クリスマスパーティーが開かれます。私達マジッククラブはここ数年毎回参加しております。外国人特に欧米の方は反応がストリートで、気持ちよく演じることができます。言葉は通じなくても、マジックはコミュニケーションをとる有効な手段となります。

定例会は月2回、ろくに練習もせずに、情報交換や世間話の



場となつていますが、何かイベントを行なう時の会員のまとまりはすばらしいものがあります。発足以来10数年たち、メンバーがかなり入れ代つても、マジックを通して人と人とのつながりを大切にする、という会長の方針が受けつがれています。

初めてマジックを間近で見た時の感激が忘れられずに、多くの人々に同じことを味わってほしい、そして、人の輪を広げていきたい、そんな思いを持って今後もサークル活動を続けていきたいと思ひます。

(村上マジッククラブ)

懸命に作品作りに励む

書道教室

書道教室は、社会教育事業の一貫としてのカルチャー教室の一つであります。

在籍生徒数は16名ですが、入学、退学ともに自由です。年齢制限もなければ性別も問いません。10年を超える生徒がおればまだ1年に満たない者もいます。多い年には20数名にも達し、すし詰め教室になった時もありました。



教室は毎週水曜日、夜7時半より9時までで途中お茶会を10分程もちます。この時は緊張感から解放されて、話がはずみます。月末には1か月の成果を作品に仕上げます。作品は久比岐野書道会に提出します。既に4段の高段位の生徒もいます。会誌「硯心」に載る成績に期待を込めますが、なかなか昇段昇級はしません。月謝は月額2千円で、先生への謝礼金と用紙・墨液代を支払います。

教室では、級長・会計・教室利用報告書提出の係活動をしています。「いきいき県民カレッジ」の認定単位は1回につき15です。

(清里 書道教室 保坂 隆男 記)

長岡市中央公民館

主事 竹淵美菜 さん

昨春、新採用以来初めての人事異動で、我が公民館にやってきましたホープを紹介しよう。

ある時は、各種講座の企画・立案、そして運営。またある時は、受付嬢やウグイス嬢、またまたある時は、会計処理や統計事務…。とにかく、日常の幅広い雑多な任務を顔色ひとつ変えずにこなす彼女からは、昨今巷にあふれる現代的な若



者とは一線を画す、不思議な魅力が感じられるのである。

さて、そんな彼女も実は、いまだきの若者を思わせる部分を多分に持ち合わせている。一番の趣味はインターネットで、その方面はとにかく明るい。ほかにカラオケ。酒を飲まなきゃ唄えないオジサン族とは違い、アルコールは極めて苦手であるにもかかわらず、カラオケに興じる彼女の姿を見ると、やはりいまだきの若者なのだと思惑するのである。

(同公民館 主任 江田 佳史 記)

素顔拝見

川口町教育委員会教育課

主任 丸山高之 さん

社会体育のために生まれてきた男、我が課のエース丸山さんを紹介します。

課に入って三年目、入った時からベテランのような仕事ぶり、公民館事業や各種スポーツ大会を無難にこなす姿はまさに「体育会系」、頼れる人材です。

そんな彼はプライベートでも大のスポーツ好き。学生時代から続けているバレー(復讐のクラブに登録)を筆頭に野球、バスケット、ユニホック、バドミントン、柔道と、週の大半をサークルに費しています。



家に帰れば二人の愛娘と美人の

休日、夜間のハードな仕事をものともせず、仕事にプライベートに大活躍の彼、家庭教育と男女共同参画を担当している筆者としては、家庭を大事にして欲しいと願う今日この頃です。

(同教育課 水落 達也 記)

『月刊 公民館』

第 4 回編集委員会開催される — 4 月号より A 4 判・横組み化へ —

懸案であった月刊公民館の表紙並びに内容の A 4 判・横組化が行われ、この 4 月号より装丁一新して刊行されることとなった。内容(レイアウト)等も従来より創意工夫されたものとなりそうで大いに期待がもてる。なお、販売単価は従来どおりとのことである。

2 年間、この冊子の編集に携わってみて感じたことは、公民館の現場の声、考えが反映されにくいことである。

要因の一つは、現場出身の編集委員が少なく、文科省関係や研究者の編集委員の比率が比較的高いこと等もあるらしい。

また、女性の編集委員が一人も居らず、男女共同参画社会の今日、早急の改善が望まれるところである。

この 4 月から編集委員も新しく選任されることでもあり、現場中心に近い陣容での選任を切望したい。

なお、購読についてもご支援いただきたい。

新潟県高齢者大学 平成 14 年度入学案内



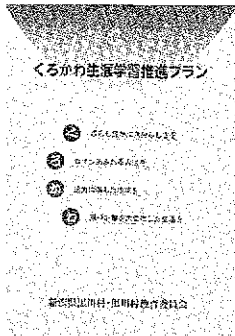
恵贈資料紹介

くろかわ生涯学習推進プラン

紙上紹介が大変遅れました。と、まづもってお詫びいたします。

表紙表題の下の、暮らし豊かに自分らしさを、ロマンあふれる人生を、活力に満ちた地域を、話・和・輪を大切にした生活を、造語のフレーズが目に入りました。

内容構成では、第 1 部総論、第 2 部基本構想、第 3 部基本計画、第 4 部実施計画、そして年



次計画「生涯学習推進施策体系図」、資料から構成されており、この計画の特長は、第 IV 部の

黒川村・黒川村教育委員会

実施計画が大変具体的で、1 推進体制の整備、2 学習活動の充実、3 学習施設・設備の整備充実について、新規、検討、継続重点事業を例示、実施達成年度を明確化しておることです。

また、資料欄が大変充実していて、推進経過、各期の区分と課題、関連事業一覧表、意識調査集計、各部の役割分担等が具体的に掲載され、分かり易く、使い易い点です。

あとがき

◇今年には桜前線がすごい速さで北上しました。三月中旬研修出張の折、国立オリンピック青少年センター隣、代々木公園の桜満開、観桜の機会を得ました。

表紙解説

第 9 回寺泊町民 綱引き大会

「12 人集まったら凄いことになりました」。ローカル大会ではありますが各地域あるいは職場でチーム編成したり、子どもの参加もあり、21 チームで力を競い合いました。(寺泊町公民館)

花の便りに急がされ、日時の経過も速く感じられます。関プロ大会の共催・後援依頼、県公連評議員会、関プロ理事会の準備にも入らねばならないが、と思うこの頃です。(鈴木記)

発行所 新潟県公民館連合会
〒 951-8053
新潟市川端町 2-9・県林業会館内
TEL・FAX (025)224-6073
発行人 会長 今井昭友夫
編集人 事務局長 鈴木友夫
印刷 第一印刷所
〒 950-8724
新潟市和合町 2-4-18
TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776
【定価 1 部 150 円 年共・年極 1,800 円】

◇お問い合わせは
（財）新潟県長寿社会振興財団
TEL 025(285)1400、FAX 025(285)0303 まで